



梅に寄り添い ともに生きる

公益社団法人 長浜観光協会
慶雲館館長

小川 喜弘さん (宮司町)

撮影場所：慶雲館

枯れきったように見える古木からこぼれるように咲く瑞々しい梅花。小川さんは、観る人に感動を与える盆梅づくりの請負人「花咲おじさん」として知られます。

公務員を経て、実家に戻るのを機に観光協会に就職したのが盆梅との出会い。当時は「祖父や父が趣味で盆栽をやっていたので、なんとなく馴染みがあった」という程度でしたが、程なく梅に魅せられて、今では2千本もの梅を手がけています。

最初の3年間は仕事の傍ら、愛知県にある梅の生産農家や盆栽店で修業。「教わるというより、親方の仕事を見て学ぶ。当時はとにかく覚えるだけで必死でした」。鉢植えとはいえ自然が相手。

1年目は日照不足、2年目は雨不足と、年によって全く異なる気候に苦しみます。「過去のデータだけに頼るのも、自分の感覚だけに頼るのもだめ」。経験を積むことの大切さを痛感しました。

年間を通じて、天候や梅の状態には常に気を配りますが、特にシーズン前の雪対策には心血を注ぎます。雪が凍って花芽が折れないよう雪払いをするなど、昼夜を問わず圃場へ。しかしそんな苦勞を忘れさせてくれるのが、梅を観に来てくれるお客さんの喜ぶ顔。大切な梅を寄贈してくれたお婆さんは、立派な盆梅となって花を咲かせている姿を見て「いいところに嫁いだねえ」と涙を流してくれたのだとか。

梅は日本産だけでも300種類以上。

個体によっても特性があります。「一つひとつの梅の意を汲みながら、無理のない形を作ることを心がけています。でも、まだまだ分からないことがいっぱい。もっと梅のことを知りたい」。

盆梅づくりに23年。しかし樹齢伝数百年という盆梅にとって小川さんが手がけた年数はごく僅か。「まだ『手塩にかけた』とは思えない。「花咲じいさん」になる頃にはそう思えるんでしょうか」と破顔します。

ずっと梅と関わっていきたい—

小川さんの眼差しは、梅を「育てる」のではなく、梅に「寄り添う」かのような。今年で66回目を迎える長浜盆梅展。最高の梅を披露するために、今日も地道に剪定に励みます。

Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報課（☎65-6504）まで申込みください。



いろんなことに興味津々！
元気いっぱいです。

山口 詩乃ちゃん (平成26年10月生まれ)
(西浅井町庄)



いつも元気なあいちゃん！！
これからもたくさん遊ぼうね！！

左近 愛理ちゃん (平成26年10月生まれ)
(殿町)

| | | | | | |
|-----------|--------------|-------------|-----------|-----------|----------------|
| まちの 人口 | 平成28年12月1日現在 | 人口 120,231人 | 男 58,803人 | 女 61,428人 | 世帯数 45,002世帯 |
| | 平成28年11月中の異動 | 転入 175人 | 転出 218人 | 出生 86人 | 死亡 114人 婚姻 51件 |